



わたしが外国を旅していてとても嬉しく思うことのひとつは、すれ違う見知らぬ人と挨拶をする瞬間。見知らぬ土地で見知らぬ人と挨拶を交わすことは同じひとつの時間を共有しているように思うから。

南太平洋に浮かぶ、330もの島からなるフィジー諸島共和国。総面積でも日本の四国くらいしかないその小さな国は1年中温暖で、人々の陽気さと太陽があったかい場所でした。すれ違うときには、みんな「BULA! (ブラ! フィジー語でこんにちは! の意)」と挨拶を交わし、時間にせかされることなくのんびりと人々が暮らしているたくさんの自然に恵まれた島でした。

今回の一人旅は、英語の勉強も兼ねた9日間のホームステイ滞在。フィジー人の多くはフィジー系ですが、インド系フィジー人と少数の ROTEMAN と呼ばれる人種のフィジー人がいて、私が今回ホームステイをしたお宅は ROTEMAN の、私と同年代の一人暮らしの女性宅。一軒屋で、リビングとキッチンが同じフロアにあり、大きな扇風機が天井についている西洋スタイル。玄関先で靴を脱いで裸足で過ごします。フィジーでは水と電力はとても貴重なものなので、お洗濯も週1回、電気掃除機ではなくて箒で床を掃きます。ヤモリが壁を歩いたり、ベッドの上にはなにやら小さな小さな虫がいることもしばしば。早朝には不思議な泣き声の鳥が元気に朝を知らせてくれます。生まれてからずっと都会に住んでいる私は本当は虫やほこりっぽい場所、ベッドの上に虫

がついているなんてまったくダメ! でも旅をするたびに「郷に入れば郷に従え」で、それを許容できる自分が旅先ではすんなりとスイッチするから不思議。バスや車が走る道路も島そのもの! 大きな1本道に2車線ですが、まるで1車線で片側だけを車が走っているように感じるのんびりさ。学校までの道を40分かけて歩いてみたり、バスに乗ってみたり。景色が違って見えたことも楽しい発見。歩くとリゾート気分がたくさんの人との挨拶。バスに乗るとごったがえした人種のつぼ。もちろん停車場に標識なんてないので、自分で降りるタイミングを判断。自分で立っている、この世界を感じる瞬間のよう。バスの中ではインド系フィジー人少女のキレイな瞳にも出会え、ドキッとしたことも印象的な思い出。

週末には同じ日にフィジーに到着して知り合った日本人の友人と、小さな島へ1泊の旅。ボートに乗ってどんどん青い海へ近づく感動。MANA ISLAND には高級リゾートホテルと私たちが滞在した個人経営のホステルのほかには自然と海しかなくて、島独特のお土産があれば買おうと思ってたわたしや友人はちょっとびっくりしたくらいにただただ自然と時間にまかせて過ごすことがここでは唯一の、そして贅沢でもある楽しみなのだといわんばかり。お昼も夜もフィジー料理のバイキングで、フランクなスタイルで自由にサーブして、砂浜にそのままダイニングがくっついたような場所に木のテーブル。夜にはファイアーダンスを見て、欧米の方たちとお酒を飲みながらゲームをしたり、夜中までみんなそれぞれの島での時間を楽しんだこともすごく楽しかった! この島でのフィジー料理は本当に美味しくてついつい食べ過ぎてしまった! フィジー人家庭での主食はタロイモで、ふかしてシンプルに塩味で食べるほかに、何かで味付けをしてあったり、野菜と一緒にいたっていたりとかさまざまな方法で食べるよう

すが、個人的に MANA ISLAND のホステルで食べたタロイモ料理はすごく美味しく、ROTEMANのホームステイ先ではフィジー料理はでてこないのが新鮮だった上に、学校の近くで食べたレストランのランチのタロイモはいまいちだっただけにびっくりの美味しさ。

一足先に日本へ帰国するわたしは1泊だけして日本人の友人と MANA ISLAND でさよなら。お別れする2日目は晴天で、青い空に海もキレイなターコイズブルー。まぶしい太陽の光の下でお別れするのが本当に寂しくて、もっともっとフィジーにいたいと心から思った。島での時間の流れはホームステイをしてる町とはまた違う時間が流れていて、いつまでもこんな何もない所でいられることを願ったくらいに。でもその反面、日本で働いてこうして休暇を利用して日常とは違う場所を感じれる幸せをあらためて感じる時間にもなった。働けることで好きなことを楽しめることの素晴らしさ。だからこそこの自由と解放。そして、自分を見つめなおす機会。今回の旅では英語の勉強以外に、自分のこれからの進路や働くことで生活を営りあるものにできる基盤を築けることの大切さをかみしめることができ、そして、もっともっと世界へ飛び出したい! という気持ちと、自分のココロを解放して感じるままに生きていくこと、それを実行する自分自身の強さを持つこと、一人の人間としてできることの何かをあらためて考えるきっかけになった旅でした。



素敵な出会い

4班 王建珍(中国)

私が市岡日本語教室に通って勉強しはじめたのは二年半前からです。その頃の私は日本語がほとんど話せませんでした。なぜなら、職場の人は中国人ばかりで、別に日本語をあまり話さなくてもよかったからです。それに、買い物などもしゃべらなくても不便はなかったからです。

きっかけは二年半前、子供の学校へ進路説明会に行きましたが、意味が全然分かりませんでした。このままでは駄目だと思いました。その時、弁天町のオーク街で一枚の市岡日本語教室についてのチラシを読みました。それで教室に見学に行ったら皇先生に出会いました。素敵な先生だと思って、そこで勉強しようと思いました。

最初は子供の学校からの通信プリントを持って教室に行ったら、先生に読み方から教えていただきました。それから、毎週休まず教室に勉強しに行きました。いつも先生と楽しい会話をしながら勉強します。一年後、先生は毎週「朝日新聞」をくださり、またいろんな小説を貸してくださいました。その中、米原万里の「不実な美女が貞淑な醜女か」は難しかったけど、菅広文の「京大芸人」は面白かったです。

教室では季節によっていろんなイベントを行います。紅葉狩りや餅大会、花見など外国人の私にとって楽しい上勉強にもなっています。またいろんなボランティア活動にも参加させてもらって、たくさんの人と出会いました。スリランカのサンディアさんもその中の一人でした。

時々先生やサンディアさんと三人で食事をします。先生はいつでもどこでも日本の文化を教えてくださいました。それぞれ違う国の私たちはつい周りのことを忘れて大声で話したり笑ったりしてしまいます。「女三人寄ればかしましい」というかもしれませんが、会話の勉強の力になります。なぜなら、発音と助詞をよく間違える私に、先生やサンディアさんも注意してくれるからです。時にはサンディアさんの家に招待してもらって、本格的なカレーまでご馳走になりました。

日本に来てから、日本の伝統芸能に最初に触れたのは去年の夏のことでした。班長小林先生に誘っていただいて、私の先生やサンディアさんと四人で奈良へ「能楽」を観に行きました。ワクワク楽しみにしていたけれども「能楽」の言葉は現代語にはほど遠く、途中でちょっと眠たくなってしまいました。でも「能楽」を観たのはとても暑い日でしたが、四人で食事をしたり、終わってからお茶をしながらお喋りしたことは、いい思い出になりました。

私が去年教育サポーターになることができたのは礼葉先生が一枚の「教育サポーターの養成講座受講者募集」の案内紙をくださったからです。私も教室の先生たちのように、日本で生活をしようとする中国の人の力になることができればいいと考えてます。

市岡日本語教室では、ただ、日本語を教えるだけではなく、そのボランティア精神も教えていただけました。それにたくさんの人との出会いは素晴らしかったと思います。

学習者の声
その3



がくしゅうしゃぼしゅうちゅう
学習者募集中!

日本語をべんきょうしたい外国人のみなさん、市岡にほんごきょうしつは生徒をぼしゅうしています。

まいしゅう金ようび、よる7時から8時30分まで。

お金はいりません。予約もいりません。来たいときに、いつでもきてください。

でんわ 080-3846-2581

e-mail: ichiokanihongo@softbank.ne.jp

ボランティア募集中!

市岡日本語教室では、日本語指導担当のボランティアを募集しています。毎週金曜日の夜7時~9時まで、市岡高校(弁天町)で活動できる方。日本語教師等の資格は必要ありません。

また、渉外活動や、広報活動を担当してくださるボランティアや、休日のイベント中心に活動してくださるイベント担当のボランティアも募集しています。

世話好きの方や、将来コーディネイターをめざしておられる方には教務・総務担当のボランティアがぴったりです。

●電話 080-3846-2581

●e-mail: ichiokanihongo@softbank.ne.jp

ボランティアご希望の方は、一度見学にお越しください。